

別紙

温室効果ガス削減実施状況報告書

1 事業の概要

(1)事業所の名称

コカ・コーラウエストプロダクツ株式会社 本郷工場

(2)事業所の所在地

〒729-0414 広島県三原市下北方1丁目3番1号

(3)業種

清涼飲料水製造業

2 計画の期間

本計画の期間は、平成 21 年度を基準年度とし、  
平成 26 年度から平成 28 年度までの 3 年間とする。

### 3 温室効果ガスの総排出量に関する数量的な目標の達成状況

#### 《排出量を削減目標とする場合》

単位: 排出量(t-CO<sub>2</sub>), 削減率(%)

温室効果ガスの種類	基準年度実排出量(a) 平成 年度	目標年度 上段:見込量(b) 下段:削減率(c) 平成 年度	計画期間の実績 (上段:実排出量(d), 下段:削減量の対基準年度比(e))					
			平成 年度	平成 年度	平成 年度	平成 年度	平成 年度	平成 年度
エネルギー起源CO <sub>2</sub>		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
非エネルギー起源CO <sub>2</sub>		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
メタン		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
一酸化二窒素		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
フロン類		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
温室効果ガス実排出量総計		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
温室効果ガスみなし排出量								
実績に対する自己評価								

※ 削減率(c)=\$((b)-(a))/(a) × 100 削減量の対基準年度比(e)=\$((a)-(d))/(a) × 100

#### 《原単位を削減目標とする場合》

原単位算定に用いた指標:

(t-CO<sub>2</sub>)/千ケース

温室効果ガスの種類	基準年度の実績(a) 平成21年度	目標年度 上段:目標(b) 下段:削減率(c) 平成28年度	計画期間の実績 (上段:原単位実績(d), 下段:削減量の対基準年度比(e))				
			平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
エネルギー起源CO <sub>2</sub>	1.13	1.07 5.1	1.27 -12.9	1.31 -15.8	1.41 -24.8	1.41 -25.1	1.39 -23.2
非エネルギー起源CO <sub>2</sub>		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
メタン		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
一酸化二窒素		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
フロン類		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
温室効果ガス排出量総計	1.13	1.07 5.1	1.27 -12.9	1.31 -15.8	1.41 -24.8	1.41 -25.1	1.39 -23.2
エネルギー消費原単位(原油換算kl)	0.51	0.46 10.3	0.55 -8.3	0.55 -6.9	0.60 -17.7	0.59 -15.5	0.56 -10.7
実績に対する自己評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2013年5月、全5ラインあった生産ラインのうち1つが閉鎖したため蒸気の供給効率が悪化。</li> <li>・当工場の社内の位置づけが小ロット多品種生産となっており、エネルギーの使用効率が悪化。</li> </ul> 上記2点を主たる原因として、エネルギー消費原単位が目標を下回る結果となっている。						

※ 削減率(c)=\$((b)-(a))/(a) × 100 削減量の対基準年度比(e)=\$((a)-(d))/(a) × 100

#### 4 温室効果ガスの排出の抑制に係る具体的な取組の実施状況

##### ○ 温室効果ガスの排出抑制に向けた取組み

	項目	削減量等	具体的な取組み
1	燃料の削減 (原単位として)	ボイラー燃料(都市ガス) 使用量6.5%削減	・蒸気配管に保温カバーを装着および、供給配管経路の効率化を行い、蒸気供給に関わるロス量を削減した。143,542m <sup>3</sup> /年
2			・蒸気ドレントラップの更新を行い、過剰なドレンによるロスを低減した。49,950m <sup>3</sup> /年
3			・レトルト殺菌釜の冷却水からの排熱を回収し、ボイラー給水を加温する装置を導入した。(次世代型熱利用設備補助金事業) 76,940m <sup>3</sup> /年
4	電気使用量の削減 (原単位として)	電気(購入電力) 使用量0.8%削減	・生産工程内の水切りエアをコンプレッサーエアから新設フローへ切り替え、電気使用量を削減した。162,523kwh/年

##### ○ 温室効果ガスみなし排出量の抑制に関する取組み(環境価値の活用等)

	種類	合計量
1		
2		
3		

##### ○ その他の取組み

	項目	削減量等	具体的な取組み
1	CIPプログラムの見直し	検証中	過剰な洗浄を防ぐための検証を行なう
2	生産ロットの効率化	検証中	小ロット生産を集めて、ひとつのロットに集約することでエネルギー使用の効率化を図る
3			

※ 環境に配慮した実践的な取組みなどをされていれば記入してください。